2024年10月1日

令和6年度宮城県刑務所出所者等就労・定着ネットワーク事業「リ・トライ！」

第5回プログラム実施報告書

1. 開催日時： 2024年9月21日（土） 14:00～16:00
2. 開催場所： 更生保護法人 宮城東華会 研修室
3. プログラム： 対話：「アルコール、薬物、ギャンブル、オンラインゲームなどで困ったことはありますか？」
   ～先輩たちとの対話～
4. 講師： 特定非営利活動法人 仙台ダルク・グループ 副理事長 飯 室 勉 様
   加えて、仙台ダルクより2名の方にお越しいただいた
5. 参加者状況と次回受講希望状況

表－1に、第5回プログラム受講者、及びこれまでの受講状況の変遷を示す。参加申込者は今回新たに1名増え18名となった。アルバイトや勤務の関係で3名の参加がかなわなかったが、8名が受講した。内1名は、第2回以降勤務の都合で参加出来なかったが久しぶりに受講できた。(参加者＃3)

また、今回は、オブザーバー2名が参加した。

	参加申込者	申込み	インテーク面談	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	次回希望
				6月22日	7月20日	8月3日	8月24日	9月21日	10月19日
1	D.Y.さん	6/6	○	○	○	○	○	○	○
2	H.S.さん	6/20	－	○	×(勤務)				
3	T.K.さん	6/20	○	○	×(勤務)			○	勤務次第
4	M.S.さん	6/20	○	○	○	×(勤務)			
5	H.T.さん	6/22	○	○	×	×	○	○	○
6	Y.H.さん	6/17	○	×	○	×	×		要確認
7	H.A.さん	6/22	○	○	○	×	×	○	要確認
8	K.H.さん	7/1	－		×	×	×		
9	S.C.さん	7/3	○		○	○	○	×(勤務)	勤務次第
10	T.S.さん	7/11	○			○	×	○	○
11	H.O.さん	7/12	－		×	×(勤務)			
12	Y.N.さん	7/18	○		○	○	○	○	○
13	A.S.さん	7/20	○		○	○	○	○	○
14	O.N.さん	8/1	○			○	○	×(勤務)	勤務次第
15	T.K.さん	8/1	○			○	○	希望無	○
16	Y.H.さん	8/8	○				○		
17	T.H.さん	8/22	○				○	×(勤務)	勤務次第
18	T.U.さん	9/12	○					○	○
各回参加人数				6名	7名	7名	9名	8名	7～13名
延べ参加人数				6名	13名	20名	29名	37名	

表-1：参加者状況と次回受講希望状況

また、継続的に受講する方も多く、「変わりたい」、「成長したい」という意志の表れであると感じている。結果、延べ参加人数37名につながっていると考える。次回参加予定者は、現時点7名であるが、勤務の調整がつけば4名が加わる。さらに、要確認2名についても、働きかけを継続し受講を促しているところである。

6. プログラムの主な内容

① 飯室　勉講師による講話

そもそも薬物や窃盗などに依存し罪を犯した彼らに最初に必要なものは、住居・就職・スキル獲得など社会的な支援だけではなく、一度倒れた自分、倒れそうになった自分を支えてくれる存在である。それは人と人との関わりの中でしか生まれない。

「依存　症」とは

：何かに頼る　病

：薬物・窃盗・ギャンブル・性など『何かに頼る』という病の根っこは一緒

「立ちなおる」には

：支えがないと自分一人では立てない「人」が、
自立や自己責任を求める社会の中で生きていくためには？

：「誰かに、何かに頼っていい」、「生きていていいんだ」という
いい意味での開き直りができるかがカギ

：そして、自分の存在を自分で認めてあげること

：思考法の転換や考える力をつけることが重要

「支える」には

：一度倒れ「どん底」や「マイナス」になった状態では、簡単に「ゼロ」には戻れない

：ダルクでは、まず、「生きていてくれて、ありがとう」と感謝を伝える

：それが理解でき、「生きていていい」とわかるようになったら、
自分がしてもらった支援を、今度は自分が仲間にしてあげること、
そうすることで、誰かの役に立っていると実感でき、生きるエネルギーとなる

＜薬などへの依存を止める思考法＞

仕事・生活することで → **薬を止める**　**逆戻り**

この思考ルートでは失敗し、

「自分は、薬物中毒には変わりない」という認識の下、

薬をやめながら → **仕事する、生活する**

この思考ルートなら、「薬をやめながら」に戻り再スタートできる

② 自助グループ、ナルコティクス・アノニマス(NA)ミーティングの疑似体験

話し手：「薬物依存症の〇〇です。」（〇〇は、名前や愛称など）

聞き手：「ハイ、〇〇」

このような掛け合いで始めることで、話し手が話しやすい場、雰囲気を作り出す。

体験談の内容には触れないが、受講者は真剣に耳を傾け、自分の体験を重ねながら聴いていたと思う。

③ 「心の空気の入れ替え」について、飯室氏の体験談を通して学ぶ

誰しも話したくない恥部を持って人生を歩んでいる。

教育熱心な親の元、厳しい家庭で育ち、(勝手に決められた)名門高校に進学し野球と勉学に励むも挫折し中退。優秀な兄と比べられる環境から逃げ出すため家出、シンナー、薬物、そして逮捕され、刑務所で

の生活を経験。出所後、ダルクにお世話になり、仕事をしていたが、自分の支えとは、仕事？恋人？では満たされない。それがダルクであると気づくことができ、現在に至る。今でも、一日一日、薬をやめながら、ダルクの仲間と生活をしている。

虐待、いじめ、貧困など、様々な背景を持ち、生きづらさを感じながら人生を歩む時、同じような経験を持つもの同士で、この「空気の出し入れ」ができる場が必要であることを知ってほしい。

7. 参加者の感想（リ・トライ！受講後アンケートより）

＜リ・トライ！プログラム受講後アンケート＞

① 中々迫力のある談話で聴いていて身になる話だったと思います。
② 就職して今は働いているけど、SST でやったことが役にたっていると実感できています。
③ 薬物はやっぱりやらない方がいいと思った。
④ もう一度犯罪から手を染めることはしてはいけないと自覚できた。
⑤ 仕事をしたいと進んで思えるようになった。
⑥ 身近ではない話を聞けて良かったし、自分も一歩ずつでも進んでいけるようにしようと思えた。
⑦ 長年、薬物を止め続けていても、スリップしてしまうので気をつけて、今日学んだ事を頭において生活して行きたい。
⑧ この様な談話を、またぜひやってほしいです。
⑨ 自分はギャンブル中毒なんじゃないかと心配になった。

8. 全体を通して

張り詰めた空気を感じつつも、受講者、オブザーバー、スタッフの参加者全員が、真剣に話に聞き入っていたことは疑いの余地もなかったと思う。

以上

報告者 ： 本 間 巧